

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500415		
法人名	医療法人 安倍病院		
事業所名	グループホーム みどりの里		
所在地	宮若市長井鶴230番地		
自己評価作成日	令和5年6月29日	評価結果確定日	令和5年8月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和5年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療法人が母体の為、常に病院と連携をとっている。 毎朝主治医に入居者の状態を報告行うため、体調が悪かったり、急変時等にはすぐに対応ができる体制が整っています。 家族の方・入居者に安心して生活が送っていただく事が出来ます。 午後よりレクリエーションを行うことで入居者同士の交流の場を設けております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>朝礼時に居間に居合わせた入居者とともに継続している理念の唱和は、職員の意識を統一する好機となり、入居者の意志を尊重したその人らしい生活支援は、入居者の「ありがとう」となっている。タイムリーなオムツ交換で心地よい排泄支援や感染防止に努めたり、自宅外泊で幻覚や幻聴が軽減し落ち着いた生活ができるようになった方もある。母体医療法人にハラスメント相談室が設置され、入居者だけでなく職員の人権に配慮した組織づくりに取り組み、正規職員が殆どで研修参加でスキルアップに務め、産休取得には法人から職員が異動するなど、生き生きと勤務できる環境を整備している。運営推進会議は書面報告であるが、今春設置した面会室は外部から入れると好評で家族などの面会が増えるなど、地域から篤い信頼を寄せられる母体医療法人と密な連携で、今後も入居者や家族の「安心」に応えるサービス展開が期待できる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **Aユニット/グループホームみどりの里**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日理念を唱和をしている。家族の方にもわかるように掲示をしている。	朝礼時に居間に居合わせた入居者とともに理念の唱和が継続し、職員の意識を統一する好機となっている。入居者の意志を尊重したその人らしい生活支援は、入居者の「ありがとう」となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の影響の為行えていない。	隣接する母体医療法人の入院やデイケア利用からの入居が殆どで、受診時などに看護師から声かけがある。法人を通じて地域の情報を得たり、活動を再開した地域同業協議会のGHみやわかに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染症の影響の為行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナウイルス感染症の影響の為、集まったの話し合いは出来ていないが、文書にて手紙を送り、意見を頂くようにしている。	運営推進会議のメンバーに、入居者の暮らしぶりや身体拘束状況等の運営について書面で報告し、地域包括支援センターからは、介護事故に関する問い合わせを受けている。会議録は事務コーナーに置かれている。	運営推進会議設置目的に勘案し、メンバーから伺った意見を会議録に整備し、会議内容をホームだよりに掲載するなど、さらなる会議の活用を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1度メールにて空き状況の報告を行っている。生活保護の方もいるため、連携をとっている。	地域包括支援センターの紹介で母体医療機関から訪問診療をしていた方の入居の折には、自宅の片付けや処分などに関わるなど、日頃から関係部署と連携や協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回身体拘束委員会にて集まり、勉強会・話し合いを行っている。その内容をスタッフにも回覧しています。	定期的な母体医療法人やデイケアと合同の身体拘束適正化委員会や研修会の内容を、全職員に周知している。スピーチロックを意識した支援に務め、家族が気になるや帰って来ないなどには、動向を見守り、ホーム内外の散歩で気分を変えたり、「まだ帰っていないよ」と心情を理解した声かけを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回虐待防止委員会にて集まり、勉強会・話し合いを行っています。その内容をスタッフにも回覧をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しようとされている方がいたが手続きの途中で退所されました。	成年後見制度の利用者や成年後見制度の利用を手続き中の方もいる。日頃から日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットを整備し、制度利用時には母体医療法人の地域連携室を紹介している。	今後はさらに多様な家族状況が予測されるため、日常生活自立支援事業や成年後見制度の内容やその違いについて学ぶ機会を設けられることを期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、納得して頂いたうえでサインを頂いている。改定があった際は、その都度同意のサインを頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの要望があった際は、話し合いを行い、検討している。	家族来訪時は暮らしぶりを報告し、定期的には花見や誕生会など笑顔満載の暮らしぶり、面会室利用時のお願いなどを掲載したホーム便りや個々の様子報告書を送付し、意見の表出を促している。他の医療機関受診時の家族のご苦勞は、寄り添いながら伺っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、主治医、管理者参加のもとスタッフが集まり話し合いの場を設けている。その他、月に1度主治医と管理者にてミーティングを行っている。	主治医出席の定例会は、率直な意見交換の場となり、会議内容は全職員に周知している。入居者の筆筒や除湿器、ミキサー、服薬カートの購入の要望もスムーズに叶い、主治医から助成金の情報を得て、面会室を設置している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人最低1回/年は研修に参加し技術の向上を目指している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用時は、差別のないように十分に配慮している。 当院では83歳まで働いている職員もおり、本人の体力が続く限り雇用継続するよう努力している。	20代から80代の男女の職員がハローワークや人材紹介、職員の口コミなどで入職し、正規職員が殆どである。広報などの役割を分担しているが、厨房や環境整備を中心に担う職員もある。研修参加でスキルアップに務め、希望のシフトが叶い、産休取得には法人から職員が異動するなど、生き生きと勤務できる環境を整備している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修に参加している。 研修の内容を他のスタッフに報告することで共有を図り人権意識を高めている。	年2回、系列のデイケアや訪問リハビリと合同の虐待防止委員会が開催され、研修参加者は内容を伝達している。母体医療法人にハラスメント相談室が設置され、入居者だけでなく職員の人権に配慮した組織づくりに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回医師からのアドバイスという形でフィードバックしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在コロナで同業者と交流の研修が出来ていなかった。 今年度より再開する予定となっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をゆっくりと傾聴することで、安心して話が出来るように努めている。また、家族や関係者からも情報を得ている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時などに家族からの要望などをたずねている。 入居後も面会時などに状況報告を行い、コミュニケーションを図っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族から話を聞き、また主治医や関係者からも情報を得るようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族や本人から話を聞き、生活歴を把握し信頼を築けるように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際や電話などで状況報告を行っている。なにか必要なことがあればご家族にも協力を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響もあり、なかなか外に出ていくことが出来ていない。面会室が出来たため、馴染みの人との面会が出来ることを期待している。	4月から設置された面会室は面会者との間をアクリルカーテンで仕切り、予約制で時間制限はあるが人数制限はなく、外部から入れる構造で来訪しやすく面会者が増えるなど、馴染みの方との関係継続に功を奏している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の方同士で交流が困難なところもあるが、スタッフが間に入り支援を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院併設の施設でもある為、入院や他施設へ移った場合でも対応できるようになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に沿って生活できるように支援をしている。どのようなことを要望しているか等スタッフ間で情報共有を行っている。	理念に「本人の意思を尊重したその人らしい生活空間づくり」を謳い、入居申し込み表に家族構成や生活歴を整備し、全職員で共有している。自宅外泊で幻覚や幻聴を軽減し落ち着いた生活ができるようになった入居者もあり、本人を共に支えあう家族の協力を得ている。	3ヶ月毎に実施しているアセスメント項目に特記項目を設けたり、職員の気づきを特記に追記することで、さらなる思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、主治医や関係者から話を聞き、情報を得るようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、記録を確認することで状態を把握するように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に要望をたずね、話し合いを行い、入居者のニーズを見つけ出すようにしている。	3か月毎に介護計画を見直し、家族に状態報告書を送付している。現状を維持できる事は何かないかとの視点で関わり、担当職員のモニタリング結果や本人、家族の意向に沿って、より現状に即したケアを実践している。パット外しや失禁対応にポータブルを設置したことがきっかけとなり、自力で自室トイレを使用するまでになった入居者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来事を記録に記入し、情報共有している。 月に一度話し合いの場を設けている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望により、買い物を行ったり等、出来る限りの支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護の方は、保護課と連携をとっている。また、訪問看護、訪問リハビリが入り安心して生活できるよう支援を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院がかかりつけ医の為、ほとんどの入居者がここだと安心との事で入居されている。毎朝、主治医に状態報告を行っている。	毎朝、かかりつけ医と個々のバイタルサインや状態を、ITを活用して共有している。毎日訪問看護師が患部の洗浄や付け替えをしたり、訪問リハビリで拘縮を防止するなど、夫々の状態に応じて支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に日々の状態を報告し、訪問看護師からも報告を受けている。また、母体の病院にもすぐに連絡が取れるようになっており、指示を仰げる体制になっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段より、主治医や各部署とコミュニケーションをとっている。気軽に話が出来た関係を作っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の入居者も受け容れている。家族には面会時、必要により電話にて状況の報告を行い理解を頂いている。	経口摂取が困難になった場合は、家族の「できるだけ長生きしてほしい」との意向を受け、隣接する医療機関入院となり、現在まで看取りはない。家族が寝泊まりできる部屋を整備し、現在家族がホームでの看取りを希望される方もあり、状況によっては看取りを検討する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故が起きた際はすぐに病院に連絡できる体制を整えている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回訓練を行っている。	隣接する医療機関の避難訓練後に消防署立ち合いで年2回火災想定での避難訓練を実施したり、年1回ストレッチャー利用可能なエレベーターで医療機関2階のデイケアに避難する水害時の訓練も実施している。来月地域同業者主催のBCP作成研修会に参加予定である。	自然災害や新型コロナウイルス感染症発生時の事業継続計画作成で、3日間分の飲料水や食料品などの備蓄や感染収束まで必要な感染予防グッズの確保を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に合わせて声かけや誘導、対応を心掛けている。	「〇〇さん」と氏名を呼称し、入居者の状況に応じた声かけを実践している。夕暮れになると不穏になる入居者もあるが、昼食後夫々の定位置で寛ぐ入居者の姿から、穏やかな暮らしが伺えた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、可能な限り実現できるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	こちらの都合で支援するのではなく、本人の要望に合わせて、無理強いせず支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	薄着や、厚着になりすぎないように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	なかなか一緒にとは難しいが、座ったままでもできる作業など、手伝って頂けるところは協力して頂いている。	献立作成や食材搬入は業者であるが、おせちやひな祭りなどの行事食があり、希望のおやつとなっている。畑のサツマイモのつるの皮むきは毎年好評で、ホーム便利には職員手作りの誕生日ケーキを前に笑顔のスナップが掲載されている。調査日も丁寧な箸遣いで、マイペースで完食する入居者があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食、副食の摂取量、水分量など記録し、体重の変化等注意している。 その人に合わせ、お粥、一口大、キザミ、ミキサーの食事形態にしたり、トロミ等使用したりと支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯のある方は、夜間洗浄液につける援助を行っている。可能な限り自己にてブラッシングして頂き、仕上げ磨きをおこなったりしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者に合わせて、トイレの声掛け誘導を行ったり、オムツの交換を行っている。オムツ交換のタイミングや、オムツのサイズ、使用方法等検討を行いながら支援を行っている。	不潔行為や臀部を掻く行為には、タイムリーなおムツ交換や軟膏塗布を励行し、心地良い排泄を支援している。パット外して失禁していた入居者はポータブルトイレ使用を経て自室のトイレで排尿できるまでになっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取等心掛け、いつ排便があっているか、何日排便があっていないか気をつけるようにしている。主治医と相談しながら、個人に合わせ、下剤の使用方法を決めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	普通浴週3回、特殊浴週2回とある程度決まった時間に行っている。 本人の状態に合わせて順番を決めている。	特殊浴を最初は目が回ると怖がっていた入居者も慣れて、10名の方々が利用している。同性介助の希望を叶え、「昼間から入れるか」には声かけなどの対応を工夫し、好みのシャンプーがあれば、家族に購入をお願いしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも本人の要望に合わせて居室で休んでもらったり、夜間は安心して休めるように巡回を行っている。また、頓用で眠剤を使用する方もおられる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬間違いがないように、配薬カードを導入して手順を作成している。処方薬が増えたり、減ったりなど変化がある時は、申し送りに記入し情報の共有を行っている。 薬により状態変化ある時は、主治医へ報告を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんで頂いたり、体操を行ったりしている。家族が持ってこられたお菓子をお出ししたり、本人が要望したジュースやお菓子を買って、お出ししたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為外出することはなかったが、少しずつ散歩に出たり、花見や初詣など出かけるようになっていく。	系列のデイケア車両で初詣や花見に出かけ、参加できない入居者は敷地傍で花見をしている。銀行の手続きに同行したり、家族同行で医療機関を受診する入居者もあるが、買い物、外出や外泊が自由にできる日を待ちわび、秋の福祉祭り見学を楽しみとしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の為お金の管理が難しく、持っている方はいない。お金を持っておきたいといわれる方は、入居時に家族へ紛失の可能性があるのであるという事を理解して頂き、同意を得ている。施設側で預かり管理している方もいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり、手紙を出される方はいない。不穩があり電話をすると訴える方は、家族とも相談し、どのように対応するか検討することもある。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭にはプランターに花を植えたり、畑で芋ほりをしたりと季節感を出している。面会室が出来た為、窓越しの面会ではなく、直接面会できるようになっている。	間仕切りが設けられた共用空間の左右に各ユニットが開所し、毎年の中庭の畑はサツマイモが植えられ、春にはチューリップを見ながら一周できる回廊が設けられている。共用空間は、アクリルのカーテンが掛けられ、明るく空調管理が行き届き、昼食後入居者がゆっくり寛いでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の席やソファーにて過ごしたり、廊下に置かれているベンチやソファーに座り、日向ぼっこをされている方もいる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段から使用していた馴染みのもの、タンスやコップなどなんでも持ち込んでいいと説明しているが、あまり持ち込まれていない。	各居室のドアに飾られた人形は、災害時離室後は外すことを申し合わせている。清掃が行き届き、広く明るい居室は洗面所やベット、筆筒が備え付けられ、中には転倒防止に床一面やベット傍などにマットが敷かれるなど、状況に応じた居室づくりを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なんでも手を出すのではなく、残存機能を活用し、出来るだけ自己にて行なって頂いている。危険が無いよう見守りを行いながら行っている。		